

# 障害者アーチェリー 全国2大会制覇 倉敷市長へ報告 市職員の大江さん

障害者アーチェリーの全国2大会で優勝しJPAF強化指定選手になったことを報告する大江さん



昨年開かれた日本身体障害者アーチェリー連盟（JPAF）主催の全国大会2大会で優勝し、同連盟の2022年強化指定選手に決まった倉敷市玉島支所市民課職員の大江佑弥さん（33）＝同市玉島八島＝が21日、市役所を訪れ、伊東香織市長に活躍を報告した。

中高時代は野球部で練習に打ち込んだ大江さんは、20代で脳出血を起こし右半身にまひが残った。2016年から障害者アーチェリーを始め、その後市役所に入庁。帰宅後や休日に練習に励んでいる。

昨年11月の「第50回全国身体障害者アーチェリー選手権大会」（堺市）で、弓の両側に滑車が付いているコンパウンド男子50メートルラウンドの部に出場。675点の大会新で2連覇を達成。10月の「第7回LPAF杯パラアーチェリートーナメント大会」（さいたま市）でも男子の同部で初優勝した。

大江さんは「仕事と練習を両立させ、日本代表として世界の舞台で実力を付け24年の五輪・パラリンピック出場を目指します」と意欲を見せ、伊東市長は「日本を代表する選手で、市役所や地元の誇り。パリに向かって頑張ってください」と激励した。

大江さんは来月18日からドバイで開かれる国際大会に日本代表として出場予定という。（山内悠記子）